

# 経営協議会報

総務部 総務企画課

日 時 平成24年3月16日（金）経営協議会

## 審議事項

### (1) 平成24年度年度計画（案）について

大城副学長から、平成24年度年度計画（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、委員の意見を踏まえ、必要な修正を加えることとなった。

なお、審議に当たって、委員から主に次のような発言があった。

- ・以前にも指摘したが、現年度と新年度の内容が表現を少し変えただけでほとんど変わらず、そのため現年度は何も進展がなかったのかなという印象を受ける項目が多い。
- ・中期計画、平成23年度年度計画、平成24年度年度計画を3つ並べてみると、一貫性がなく、中期計画を達成するために23年度計画が立てられて、さらにその成果を踏まえて24年度計画が立てられているのか、PDCAサイクルは機能しているのかと疑問に感じる箇所がある。
- ・教員の業績評価の改善その他でアンケートや調査等をよく行っているが、それらの比較分析結果等を踏まえて、前に進むということがあまりないのは問題ではないか。
- ・表現が非常に抽象的で、具体的にどういふことをやりたいのか非常に見えにくい。また、重点項目については、時間を割いて説明していただきたい。
- ・文部科学省へ提出する計画案はさておき、経営協議会ではもっと各年度の取組みや課題が具体的にわかる説明や資料を出していただきたい。
- ・入試のトラブルについて、入試本部と広報担当の連携不足だという説明があったが、入試は全学をあげて取り組み、対応できる体制をとるべきである。入試のトラブルについては、新聞等でも取り上げられた以上、検証した結果をきちんと公表していただきたい。琉大がきちんとしたリスク管理体制を持っていないように感じるが、さまざまな問題に対するリスク管理部のようなものはないのか。年度計画ではリスク管理について触れられていないが、全学で危機に対応できるという体制をとるべきである。

### (2) 平成24年度年度計画予算（案）について

親川副学長から、平成24年度年度計画予算（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

なお、審議に当たって、委員から主に次のような意見があった。

- ・教育研究経費が前年度に比べて減少しているのに対し、非常勤職員の人件費が増加している。中期計画に基づいて、職員の適正配置を行い人件費削減につなげ、教育研究経費を確保すべきではないか。
- ・事務量がトータルとしてはほとんど変わらず、再雇用職員を中心とした事務支援センターで各部署の定型業務等を集中管理し、事務の効率化・能率化を図ったのであれば、その分各部署の非常勤職員の人件費が浮いてくるべきではないか。

### (3) 平成23年度学内補正予算（案）について

親川副学長から、平成23年度学内補正予算（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

## 報告事項

### (1) 平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果について

大城副学長から、平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。

なお、委員から主に次のような発言があった。

- ・おおむね順調であるという評価結果が出ているのは喜ばしいが、危機管理や法令遵守について、まだまだいろんな課題がある。評価とは別に現実の問題として、外部から見ると十分じゃないという印象があり、気を引き締めて運営に当たっていただきたい。

(2) 平成24年度政府予算案について

親川副学長から、平成24年度政府予算案について、資料に基づき報告があった。

(3) 平成23年度政府補正予算（施設整備費）について

親川副学長から、平成23年度政府補正予算（施設整備費）について、資料に基づき報告があった。

(4) その他

① 平成22年度第3回及び平成23年度経営協議会における学外委員による指摘事項等への取組みについて

総務部長から、平成22年度第3回及び平成23年度経営協議会における学外委員による指摘事項等への取組みについて、資料に基づき報告があった。

その他、委員から、以下のような発言があった。

- ・ 新城名誉教授のみどりの学術賞の受賞、農学部附属亜熱帯フィールド科学教育センターで開発されたウコンの新品種の登録、熱帯生物圏研究センターの教員が民間企業と共同でバイオベンチャーを設立したという報道に触れ、琉大がアピールしてきた地域特性と国際性を背負った大学にふさわしい記事が書かれたことを嬉しく思っている。  
この機会に、地域特性・地域貢献、また国際性というような面で、こういう研究が次々となされるように、研究費の問題点等についても、見直していただきたい。琉大の特色を世間の人に知らせることが大事であるので、国際性や地域貢献など、大学が掲げている目標に近い研究については特に重点的に援助ができるようにしてはどうか。